

アジア原子力協力フォーラム（F N C A） 第7回コーディネーター会合の開催について

平成18年2月21日
原子力委員会

F N C Aの枠組みの下では、原子力平和利用に関する8分野12プロジェクトの研究協力が進められており、プロジェクトの新設、改廃、調整、評価等に関する討議を目的とした「コーディネーター会合」を我が国主催で開催している。

今回の第7回コーディネーター会合においては、現行プロジェクトの進捗状況の報告に加え、農業利用（バイオ肥料）、原子力安全文化、工業利用（電子加速器）の3分野において評価を行うとともに、昨年的大臣級会合で創設が合意された「アジア原子力教育訓練プログラム（A N T E P）」の具体的実施策について議論を行う。

1．主 催

内閣府 原子力委員会

2．開催時期

平成18年3月1日（水）～3月3日（金）

3．開催場所

東京（国際ファッションセンター K F Cホール）

4．参加予定国

オーストラリア、中国、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、タイ、
ベトナム、日本

（オブザーバー参加）バングラデシュ、I A E A

第7回コーディネーター会合プログラム（案）

平成18年3月1日（水）

セッション1「開会」

セッション2「第6回大臣級会合の結果報告」

セッション3「第2回パネル会合の結果報告」

セッション4-1「プロジェクトの活動報告、評価、将来計画」

- (1) 人材養成
- (2) 農業利用

平成18年3月2日（木）

セッション4-2「プロジェクトの活動報告、評価、将来計画」

- (3) 研究炉利用
- (4) 医学利用
- (5) 原子力安全文化
- (6) 放射性廃棄物管理 他

平成18年3月3日（金）

セッション4-3「プロジェクトの活動報告、評価、将来計画」

- (7) 工業利用
- (8) 原子力広報

セッション5「議事録とりまとめに関する討議」

セッション6「閉会」

第7回 FNCA コーディネーター会合海外参加予定者

2006年3月1日～3月3日 於東京

Australia

Dr. Ronald Francis Cameron

オーストラリア原子力科学技術機構
Executive Director

China

Mr. Zhang Jing

中国国家原子能機構 (CAEA)
国際合作司 司長 (Director General)

Mr. Huang Wei

CAEA 国際合作司 次長

Indonesia

Dr. Soedyartomo Soentono

インドネシア原子力庁 (BATAN) 長官

Dr. Aang Hanafiah R. Wangsaatmadja

BATAN
研究開発成果有効利用・原子力科学技術広報担当次官

Korea

科学技術省 (MOST) から参加する方向で調整中

Malaysia

Mr. Adnan Haji. Khalid

マレーシア原子力庁 (MINT) 企画・対外関係部長

Dr. Mohamed Ali Abdul Khander

ペナン病院
診断画像部顧問、核医学専門家

The Philippines

Dr. (Ms.) Corazon C. Bernido

フィリピン原子力研究所 (PNRI) 副所長

Ms. Victoria Fe O. Medina

PNRI 所長室 特別技術補佐官

Thailand

Ms. Jindarom Chvajarernpun

タイ原子力庁 (OAP) 原子力局 国際協力グループ長

Ms. Benya Rajabhandaraks

OAP 原子力局 国際協力グループ員

Viet Nam

Dr. Le Van Hong

ベトナム原子力委員会 (VAEC) 副委員長

Dr. Hoang Anh Tuan

VAEC 企画・研究開発部 次長

Bangladesh (Observer)

Dr. Abdul Aziz

バングラデシュ原子力委員会 (BAEC) 委員 (バイオ科学担当)

IAEA (Observer)

Dr. Mr. Nahrul Khair Alang Md. Rashid

R C A 議長
マレーシア原子力庁副長官

アジア原子力協力フォーラム (FNCA: Forum for Nuclear Cooperation in Asia) の活動について

平成18年2月

内閣府

政策統括官(科学技術政策担当)付

参事官(原子力担当)付

1. 目的

積極的な地域のパートナーシップを通して、原子力技術の平和的で安全な利用を進め、社会・経済的発展を促進することを目指す

2. 参加国

日本、オーストラリア、中国、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナムの9カ国(この他にバングラディシュ及びIAEAがオブザーバー参加)

3. 経緯

原子力委員会が主催して開催してきた、近隣アジア諸国の原子力関係者が一同に会し、情報交換及び地域協力のあり方を議論する場であった「アジア地域原子力協力国際会議」を発展的に改組し、平成11年4月に「アジア原子力協力フォーラム」が発足した。

<原子力政策大綱における位置づけ(アジア諸国との協力部分)>

我が国が主体的・能動的に協力を行う国・地域は、地政学的にも経済的にも緊密な関係を有するアジアを中心とする。(略) これらの協力に当たっては、相手国の自主性を重んじ、パートナーシップに基づくことを基本として、例えばアジア原子力協力フォーラム(FNCA)、IAEAのアジア原子力地域協力協定(RCA)といった多国間の枠組みや、二国間及び国際機関を通じた枠組みを目的に応じて効果的に利用することが適切である。

参考:「アジア地域原子力協力国際会議」は1990年、アジア地域での放射線利用や研究炉での利用の推進に貢献するとともに、核拡散防止条約(NPT)を批准していないインドとパキスタンが加盟しているIAEA/RCAとは別の枠組みを構築するために、日本主導で設立された。1999年、これまでの協力活動全体を総括し、内外との連絡・調整を行う「コーディネーター」を各国から選任し、その下で専門的見地から活動する「プロジェクトリーダー」を各協力分野ごとに選任し、より組織的な協力活動を進めることのできるFNCA新体制に移行した。

4. 枠組み

大臣級会合

各国の原子力を所管する大臣級代表が出席して、原子力技術の平和利用に関する地域協力のための政策対話を行う。なお、大臣級会合を補佐するための上級行政官会合を付設。日本と参加国で交互に毎年1回開催。

(開催実績)

第1回大臣級会合：平成12年(タイ) 大島科学技術庁長官出席

テーマ「原子力利用の推進」、「原子力安全」、「地域原子力協力の推進」

第2回大臣級会合：平成13年(東京) 尾身科学技術政策担当大臣出席

テーマ「持続可能な発展と原子力」、「放射線利用分野における協力のあり方」

第3回大臣級会合：平成14年(韓国) 細田科学技術政策担当大臣出席

テーマ「人材養成戦略」、「持続可能発展と原子力」

第4回大臣級会合：平成15年(沖縄) 茂木科学技術政策担当大臣出席

テーマ「放射線・ラジオアイソトープ利用の社会・経済的効果の増大」、
「持続可能な発展と原子力エネルギー」

第5回大臣級会合：平成16年(ベトナム) 棚橋科学技術政策担当大臣出席

テーマ「アジアにおける原子力人材育成に関する協力」、
「FNCAの今後のあり方」

第6回大臣級会合：平成17年(東京) 松田科学技術政策担当大臣出席

テーマ「アジアにおける原子力人材育成に関する協力」
「科学技術と原子力」

個別プロジェクトについての協力活動(添付1)

FNCAは、研究炉利用、農業利用、医学利用、原子力広報、放射性廃棄物管理、原子力安全文化、人材養成、工業利用の8つの分野で12のプロジェクトを展開している。プロジェクト毎に各国1名のプロジェクトリーダーが任命されている。各参加国のプロジェクトリーダーは、自国におけるプロジェクト活動を実施していく責任を有する。プロジェクト毎に、通常年1回のワークショップ等を開催し、それぞれの国の進捗状況と成果を発表・討議して、次期実施計画を策定する。

コーディネーターとコーディネーター会合

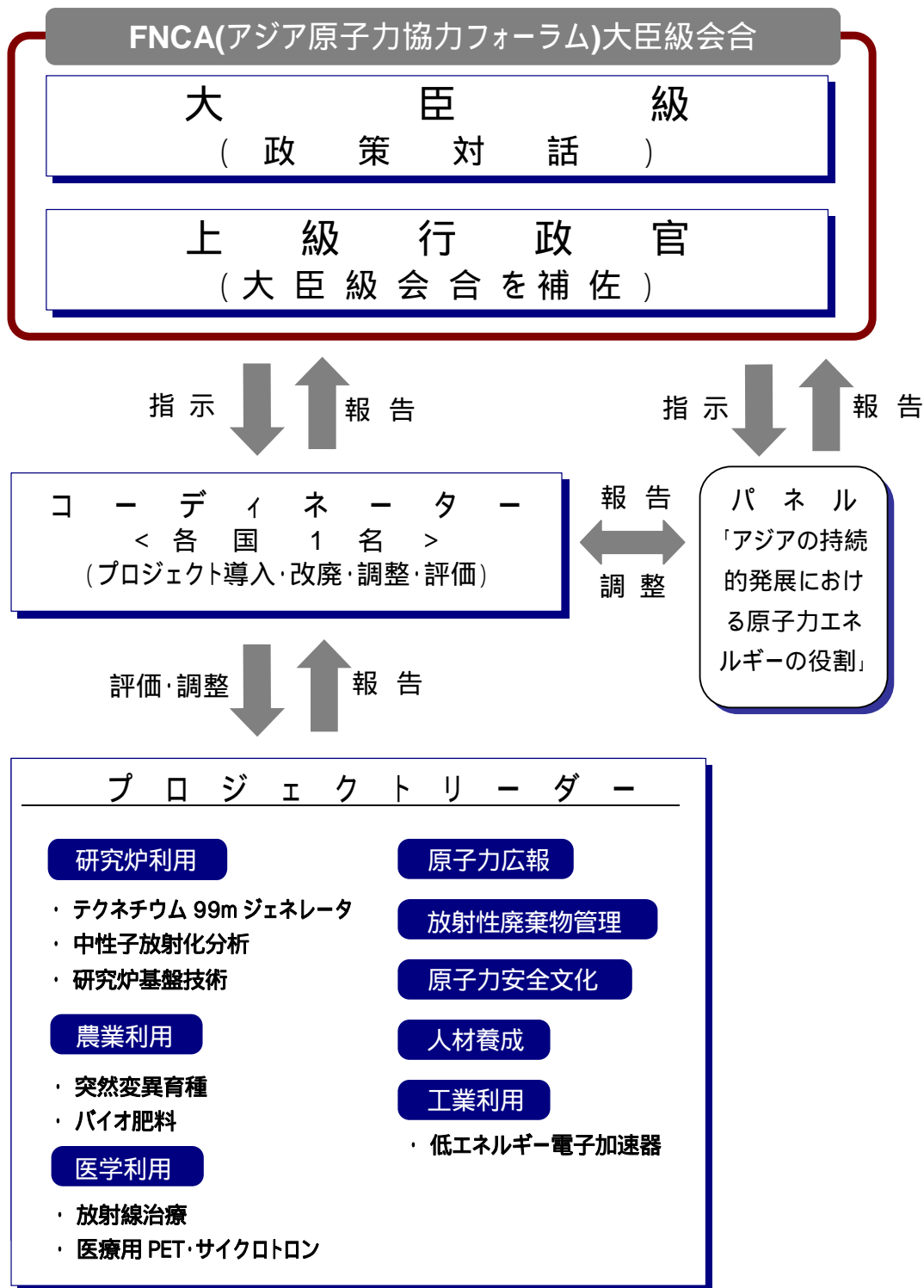
自国におけるFNCAプロジェクトの実施に責任を持つとともに、協力活動全体を総括して参加国相互の連絡調整を行う役割を持つコーディネーターが各国から1名選任されている。プロジェクトの実施状況を評価・レビューするとともに、全体計画を討議するため、コーディネーター会合を年1回日本で開催。

「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」検討パネル

アジア地域の持続的発展を考えていくためには、長期的な環境問題への対応やエネルギー資源の確保の面から、原子力エネルギーの役割を評価していく必要がある。そのため、平成16年度から新たに「アジアの持続的発展における原

「原子力エネルギーの役割」について政策的検討をおこなうパネルを設置し、平成 18 年度までの3ヵ年検討を行う。第1回会合は平成 16 年 10 月、第 2 回会合は平成 18 年 1 月に東京にて開催。

アジア原子力協力フォーラム(FNCA)の枠組み



(添付1)

個別プロジェクト(8分野)活動の概要:

現在、FNCAの枠組みの下、以下の8分野の協力活動が行われている。このうち、安全文化はオーストラリア、PET・サイクロトロンはマレーシアがそれぞれ主導し、他の分野は日本が主導している。

分野 / プロジェクト		目 的
研究炉 利 用	テクネチウム ジェネレーター	FNCA 参加国が輸入に頼っている核医学診断用のモリブデン (Mo-99) / テクネチウム (Tc-99m) ジェネレーターの簡便な製造方法を確認し、医学利用への普及を図る。
	中性子放射化分析	環境汚染物質の中性子放射化分析の技術を確認し、環境モニタリングシステムへの適用を図る。
	研究炉基盤技術	研究炉共通の核計算コードを用いて炉心特性評価能力を高め、安全かつ安定した運転に資するとともに効率的な研究炉利用のための基礎技術の向上を図る。
農 業 利 用	放射線育種	放射線照射による突然変異育種を用いて、耐旱性、耐虫性、耐病性に優れた有望種や新品種の農作物を作出し、高付加価値化や増産に貢献する。
	バイオ肥料	農作物の収穫量増大を目的に、放射線滅菌技術を利用したバイオ肥料製造に関する技術を確認し、普及させる。
医 学 利 用	放射線治療	放射線によるがん治療の最適なプロトコル (標準治療手順書) を策定し、放射線療法の治療成績の向上と普及を図る。子宮頸がん と上咽頭がんの臨床試験を実施。
	PET・サイクロトロン	医療用 PET (陽電子放出断層撮像装置)、サイクロトロンを用いた診断技術の向上と普及を目指し、画像診断技術、放射線医薬品製造、画像処理計測装置の3分野で2005年度から活動を開始予定。
工 業 利 用	低エネルギー 電子加速器利用	低コストで安全な利用分野の広い電子加速器照射システム技術の開発を目指し、液体・粉体・フィルム状材料への適用性を実証する。
原子力広報		原子力広報の方策を FNCA 参加国ごとに明確にし、効果的な原子力広報活動を実施する。FNCA 活動全体を広報の対象とし、各国における広報活動を推進する。
放射性廃棄物管理		FNCA 参加国の放射性廃棄物管理の現状、法規制体系、組織などに関する情報交換および現状把握についての調査のとりまとめ。
原子力安全文化		安全文化指標などの国別調査を通じた各国の原子力安全文化促進活動、および研究炉のピアレビュー (相互評価) 活動の実施。
人材養成		FNCA 参加各国のニーズに応じた人材養成を推進するために、相互に補完・協力できるネットワーク体制を構築し、「アジア原子力教育訓練プログラム (A N T E P)」の具体化活動を推進する。